



自然素材で暮らしをデザイン

木だて家

手づくりでお届けする住まいの情報誌

しあわせ

2024・8 vol.151

〒915-0242 福井県越前市粟田部町 32-15-1



～心耕す～



会長 内田 隆陽

-五感で感じる、福井の木の温もり-

福井の豊かな自然に囲まれた越前市粟田部町。ここで私たち木だて家は、地元福井県産の杉を使った住まいづくりに取り組んでいます。

私が製材を担当する中で常に心がけているのは、木材の持つ本来の魅力を最大限に引き出すことです。自社で製材を行うことで、一本一本の木の個性を見極め、最適な形に加工することができます。この工程こそが、五感で味わえる住まいづくりの第一歩なのです。

木の香り、手触り、目に優しい木目の美しさ。これらは工場生産の画一的な部材では得られない、自然素材ならではの魅力です。私たちの住まいに一步足を踏み入ると、まるで森の中にいるような心地よさを感じていただけるはずです。

しかし、自然素材の良さを活かすだけでは十分ではありません。現代の生活に合わせた機能性も重要です。そこで私たちは、家族構成や生活スタイルに合わせて間取りや設備を提案しています。例えば、共働き家庭には家事効率を上げる動線を、三世帯同居の家族には適度な距離感を保てる空間設計を心がけています。

さらに、環境への配慮も忘れてはいません。地元の木材を使用することで輸送にかかるエネルギーを抑え、製材過程で出る端材も無駄なく利用しています。こうした取り組みは、地球にも、そしてそこに住む人々にもやさしい住まいづつがりの礎となっているのです。

木だて家の住まいは、五感で感じる心地よさと現代の暮らしやすさが融合した空間です。福井の木の温もりに包まれて、家族の絆を深め、心豊かな毎日を過ごせる。そんな住まいづくりを、これからも続けていきたいと思えます。





— 繰り返し発生する地震から住まいを守るために！ —

1月に起きた能登半島地震も記憶に新しいところ。地震から建物を守るための「制振装置」をご紹介します。

現在の建築基準法では耐震基準が定められ、基準を満たした建物でなければ建てることはできません。これが「耐震性能」です。「耐震」とは建物を固く・強くして地震の力に耐えるものです。

では、「制振装置」とは？

揺れを吸収し、建物の変形を小さくすることで「耐震性能」（建物の固さ、強さ）を守るもの。

「制振装置」と言っても、「金属系」「ゴム・樹脂系」「オイル系」と大きく3つに分類されます。現在福井市で建築中の「上六条のいえ」「桃園のいえ」に設置した制振装置は「オイル系」。いわゆる油圧式で、簡単に言えば、自動車やバイクのサスペンションを建物に取り付けるようなものです。

この装置は地震が発生した時に揺れと逆方向に動くことで、建物の揺れにブレーキをかけます。つまり、建物の変形を小さくし、揺れの速度を抑え、地震時の衝撃（損傷被害）を約20%～40%軽減します。当然、体で感じる揺れも小さくなります。

この装置を取り付けるには、事前に建築図面（軸組図、壁量計算書等々）をメーカーに送り、配置、軽減効果を検討してもらい、上棟後の筋違、間柱の取り付けが終わったタイミングで制振装置を取り付けます。



建物を長期的に守るには「耐震」（強さ）を守る、そのために「制振装置」で安心の住まいを！
※「制震装置」も同じ意味ではありますが、この記事では「制振装置」と統一して紹介させていただきました。

この革新的な技術により私たちの住まいはより安全になり、地震時の不安も大きく軽減されます。家族の安全を守るこの新しい守護神についてさらに詳しく知りたい方は **YouTube** でご覧ください👉





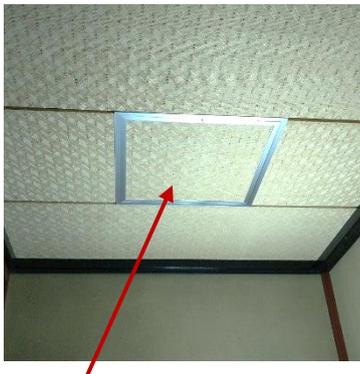
築50年の施主様から、天井裏で不審な物音が絶えないとの連絡がありました。確認のため1階天井裏を点検すると、ゴソゴソと小動物の歩き回る音が聞こえ、時折ウーッと鳴き声も。どうやら小動物が侵入している様子です。半世紀前の住宅ですと、下屋や本屋根等隙間に小動物が出入りできる程の穴が開いている為、そこから侵入したものと思われます。

迅速に対応するため、専門の駆除業者と相談し、天井に点検口を設けて調査を開始。そこで目にしたのは、なんと5匹の**アライグマ**でした！

プロの駆除員が駆けつけ、捕獲作業を開始。親アライグマは体長60~70cmと立派なものでしたが、無事に捕獲完了。その後、侵入したと思われる下屋下の隙間に板を張り、施工完了。

ご家族も一安心です。一般の方が捕獲するのは危険ですので、専門の方にお任せください。

天井裏の物音に注意を払い、安全な住環境を守りましょう。



取り付けた点検口



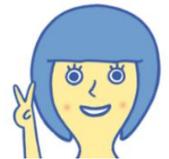
隙間に板を張り施工間完了



親子で木育

LED あんどん作り

今回は、夏にぴったりな【フルーツゼリー・フルーツポンチ】と【あんどん】を作りました♪



アシスタント 宇野 七海

7月20日に弊社モデルハウスにて木育を開催しました！多くの方にご参加いただき大盛況となりました💡

参加者は子供たちを中心に、楽しみながら学ぶ事ができました。

子供たちは、自分たちでカップにフルーツを入れたり、ゼリー液を注いだりする工程に夢中になっていました。

フルーツポンチはほとんどの子が初体験で、

炭酸ジュースにラムネを入れた時の

ジュースが溢れ出る瞬間は

子供たちにとって大興奮する体験となりました💡



あんどん作りでは、子供たちが木工の楽しさを体験し、創造力を発揮出来たと感じます。

完成した「あんどん」に灯りを点けた瞬間、子供たちの目がキラキラと輝きました。

「きれい！」「家で使いたい！」などの声上がり、子供たちの表情には達成感と喜びが溢れていました！

夏の夜を美しく照らしてくれると思います🌙



基礎工事



福井市「上六条の平屋」

こちらは普段はほとんど目にしない住宅基礎の配筋写真になります。住宅基礎には「布基礎」と「ベタ基礎」の二種類があります！一言で違いをあらわすと線で支えるのが布基礎、面で支えるのがベタ基礎といった感じでしょうか。

木だて家では木造住宅との相性が良く防蟻防腐に効果的なベタ基礎を採用しております。基礎がしっかりしていることが安心安全な住宅の第一歩！このことを常に意識しながら施工を行っております。

福井市「桃園のいえ」

梅雨の時期で蒸し暑い中、上棟式が完了しました。職人の方々が連携しながら住宅の骨格が立ち上がっていく様は何度見ても感動します。阿吽の呼吸で進んでいく上棟式はまさに職人技！

さて、こちらの住宅では片流れ屋根を採用しています。

上棟式



住宅街に立つ家では屋根からの落雪がご近所トラブルにつながることも。片流れ屋根にすることで落雪場所を制限しつつも広がりのある空間にすることができます。事前に対策しておくことも長く住み続けられる住宅の秘訣なのです！

そとん壁 下塗り



福井市「東郷のいえ」

こちらはそとん壁の下塗り完了後の写真になります！これで完成ではなく、乾燥後に仕上げとしてもう一層塗り重ねていきます。二層構造にすることで透湿性、断熱性を高めているのです。また下塗りの段階でひび割れ防止のネットを塗り込むことにより耐久性も高めています！自然素材でありながらも高機能で他にはない風合いをもつ、そとん壁には施工する上でのポイントがたくさんあるのですね！

これからも木だて家の家づくりの姿勢や品質へのこだわり、そしてお客様との信頼関係構築の過程をお伝えしていきます～！